

## **株主・投資家の皆様へ**

株主・投資家の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

最近の弊社の株価の下落、低迷を踏まえ、経営陣の弊社における事業の将来性、経営に対する認識について以下の通り申し上げます。

また、これまでの事業施策や、今後の方針については、3月30日の株主総会後に開催予定の『株式会社メディビックグループ 経営近況報告会』にて、メディビックグループとしての意思をしっかりとお伝えしたい、と考えております。

同報告会は、弊社のホームページにおいても、動画にて公開することにより、より多くの株主・投資家の皆様にご覧頂きたいと考えておりますので、今後とも、皆様の温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

---

### **第7期の業績について(平成18年1月1日から12月31日まで)**

弊社グループの第7期決算は中期経営計画の1年目にあたり、目標を上回る結果を達成することができました。売上高は16億4,843万円(前年比9億507万円の増収)、営業利益は354万円(3億6,283万円改善)、経常損失は3,864万円(3億7,289万円の改善)、当期純損失は2億332万円(2億2,213万円の改善)と前年に比べ大幅な改善となりました。

### **株価の下落についての経営陣の見解**

経営陣は、お約束した業績を着実に達成することにより株主価値を上げることができると考えておりましたが、大幅な業績の改善にも係らず、年初より株価は70%を超える下落となり、株主の方々に大変ご迷惑をおかけしていると強く認識しております。現在、経営陣は、弊社グループの株価の低迷については主に以下三点の要因が考えられると認識しております。

第一に、ライフサイエンス分野を中心とした投資事業を収益の柱としつつ、バイオ事業を着実に育てていくという弊社グループの事業モデルが投資家の方々のご理解が得られる様うまくお伝えすることが出来なかったことがあげられます。特にライブドア・ショック以来、本業以外に金融業を行う企業体に対する市場の不信感は強く、弊社グループにおける、投資・投資育成事業の大幅な成長はほとんど市場で評価されなかったと感じております。

第二に、弊社の資金調達が投資家の方々のご理解を得られず、株価の一層の低迷、財務の不安定性を招いたことがあげられます。我々は、当時の状況を鑑みれば最善策であったとは思っておりますが、投資家の方々の理解を得るためのご説明が足りなかった点や、株価の下落により一部は償還を手当てするため有効に活用することができなかった点は大いに反省すべきと思っております。

第三に、米国を中心として進めておりました抗癌剤Glufosfamide (GLFS)の第Ⅲ相臨床試験の結果により、当社が引き続き日本国内での臨床試験を継続していくことへの不安があげられると考えております。

### **今後の方向性**

今後、弊社グループは大胆に事業領域を見直し、現状の低迷からの脱却を目指していくことを考えております。具体的な内容については、2、3ヶ月以内にお知らせできるものと考えております。

大きな柱として、第一に、バイオ事業についての一層の早期収益化を挙げます。それを目指すために、バイオ事業への経営資源の一層の集中、大胆なM&Aや提携戦略を検討してまいります。

第二に財務の安定化を目指します。償還が近づいている社債(転換社債型新株予約権付社債)やリーマン・ブラザーズ証券からのローンについての返済原資は手当て済みですが、財務内容の安定化はなお重要な課題であると認識しております。前述のM&Aや提携も、財務の安定化においても寄与するものと考えております。本日のプレスリリースで公表いたしましたが、私自身が株

式を1,875株取得し、弊社グループにおけるコミットメントを明らかにいたしました。これにより投資家の方々の信頼を少しでも取り戻すことができたと考えております。さらに株価を下げる誘因となるような資金調達、必然性が投資家の方々に明らかに理解いただける場合を除き、出来るだけ避けていきたい、と考えております。

第三にGLFSの国内臨床試験の継続についての是非ではありますが、この件に関しては社内で相当検討し、第I相試験を継続することを決定いたしました。株主の方々からは開発資金の不安を感じられているかもしれませんが、現状行っている第I相試験は、非常に小規模な試験でかつ共同開発先Threshold社も費用負担を行うことから財務負担は限定的となります。現在当社で米国III相試験の詳細について分析を行っており、その結果を見ながら柔軟に対処していく予定でございます。ただ、現状ではこの化合物の将来性については決して悲観するものではないと認識しております。

### **当社の使命と存在価値**

健康で長生きしたい、というのは、全ての人に共通の願いです。病気になってもいち早く健康に戻りたいという願望と、病気にならず健康でいたいという願望があると思います。それを適えてくれるのが、これからの時代に台頭してくる「個の医療」であり、「予防医療」です。医療とバイオテクノロジーの進展は、体質に合ったより効果の高い医療や、治療中心から予防中心の医療の世界への理想を実現に導いてくれます。

弊社の使命は、これら「個の医療」や「予防医療」の理想を現実に変えることにあります。つまり、個人の体質を科学的に導き出し、薬効の高く副作用の少ない「テーラーメイド創薬」を、一刻も早く創り上げることにあります。そして弊社の強みは、そういった理想を現実に変えられる技術やノウハウを持っていることといえます。

「個の医療」や「予防医療」を実現させるためには、多くの人々の協力が必要です。より多くの人々が個の医療を利用できるようにするためには、弊社の取り組みを多くの人々に支援していただく必要があります。個の医療や予防医療推進のための弊社の役割は、その先鞭役として、創薬支援や創薬や投資・投資育成などを通して、「テーラーメイド創薬」という業界全体を大きく成長させ、その世界へ導いていくことにあります。

### **弊社を支えて下さる全ての皆様へ**

株主・投資家を始め、弊社を支えて下さっている皆様には、弊社が、いかに大きく未知なる世界の中で、社会全体と足並みを揃えながら進めていく難しい環境下で、経営を推し進めているか、ということも少しでもご理解頂ければと思います。また、それゆえに、いつになれば黒字化に出来るのかという問いに対しても、これまで存在しなかった業界ゆえ、長期展望においては、現時点では明確な数字を想定して示すことができないという環境にあることも、何卒ご理解頂ければと思います。

そして、将来的には、業績拡大による収益の分配と、個の医療や予防医療の実現という、株主や投資家の皆様から託された2つの夢の実現を図るべく、弊社が現在置かれている経営環境とこれからの事業展開について充分にご説明を続けながら、今後とも全力で事業に邁進してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、長期的な視野に立って、弊社の事業になお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007年3月23日

株式会社メディビックグループ  
代表取締役社長 橋本康弘(易周)